

令和1年産米の作柄と品質の概況

水稻作柄概況調査 (9月15日現在)

【滋賀県】
 作況指数：99
 10a 当たりの
 予想収量511kg
 (前年差△1kg)

【湖北】
 作況指数：98
 10a 当たりの
 予想収量491kg
 (前年差△2kg)



滋賀県
 10a当たりの
 予想収量
 (9月15日現在)

【湖南】
 作況指数：99
 10a 当たりの
 予想収量519kg
 (前年差△2kg)

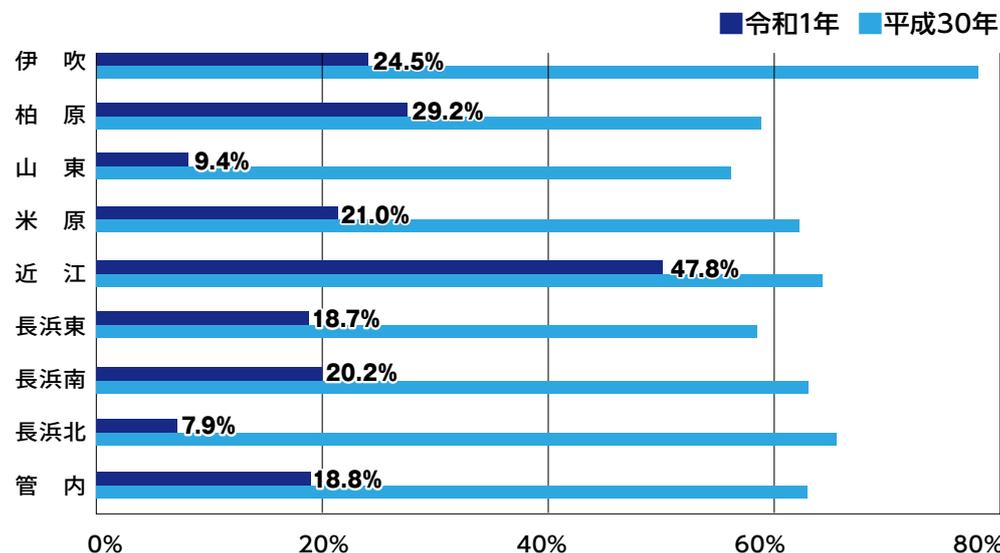
作柄の良否 (作況指数) ■ 平年並み (101~99) ■ やや不良 (98~95)

滋賀県の令和1年産水稻の予想収量と作況指数が9月30日に公表されました。滋賀県の予想収量は、511kgで昨年より1kg減、作況指数は湖北で98となり「やや不良」、滋賀県で99となり「平年並み」となりました。

今年は、6月下旬から7月にかけての日照不足と、出穂以降の高温障害により夜温も高く、さらに登熟期後半には、日照不足による登熟不良等の影響から、未熟米が増加し品質低下・収量に影響があったと考えられます。

【9月30日】近畿農政局公表 ※()内は前年差。
 ※1・70mmのふるい目幅で選別された玄米重量となります。

令和1年地域別地場コシヒカリ1等比率 (9月30日現在)



【滋賀県の過去の品質不良の年】

平成11年産：1等比率45% (原因：高夜温) 平成14年産：1等比率49% (原因：高温)
 平成22年産：1等比率43% (原因：高温) 平成26年産：1等比率51% (原因：日照不足)

例年多い2等以下の格付と主な要因

格付種類	種類解説	要因
除青未熟粒	充実の不十分な粒で、玄米の厚みが薄く、縦溝が深い歪みや変形したものもある	● 籾数過多 ● 登熟期の稲体の活力低下
心白・腹白粒 (白未熟粒)	乳白粒 胚乳部に白色不透明な部分がある部分的にデンプン供給不足で発生	● 登熟初期の高温・日照不足 ● 籾数過多・総籾数30,000粒/m ² を上回ると発生率が高い
	背白粒 米粒の背部に白色不透明な部分がある	● 登熟中・後期の高温 ● 登熟期の稲体の活力低下
	基部未熟 米粒の基部に白色不透明な部分がある	
胴割粒	米粒に亀裂がある	● 出穂後10日間の高温 ● 早期落水・刈遅れ
もみ混入	玄米中に籾が混合する (1000粒の内、約5粒以上は2等)	● 機械設定・調製涼・水分ムラ
カメムシ着色粒	カメムシによる吸汁被害 イネシソガレセンチュウによる被害粒 (1000粒の内、約3粒以上は2等)	● 畦畔雑草でのカメムシ類の増殖・適期防除の未実施 ● 種子消毒 (イネシソガレセンチュウ)

地域別コシヒカリ1等比率

令和1年産米の地場検査結果(9月30日現在)は、表のとおり結果となり、当JA管内の1等米比率は18.8%となり、前年度63.1%(同時期)より大幅減少となりました。特に、除青未熟粒・乳白粒・背白粒・基部未熟が多くなり、1等比率が低下しました。

例年多い2等以下の格付と主な要因

令和1年産米については、水稻の作柄と品質・収量が低迷しました。その実態と要因について今後、関係機関と対策を講じ11月発行します「令和2年産栽培手引き」に詳しく記載させていただきますので参考にしてください。

